



# テクニカルダイアリー



穂首いもち病

葉いもち病

写真② いもち病に侵されて枯れた稲穂

写真④ エバーゴルフォルテ箱粒剤

写真③ スタウトパディート箱粒剤

**箱施用薬剤でいもち病・紋枯病を予防**

近年は6月中旬～7月中旬に曇雨天が続くことが多くあります。そのため、病気の発生に適した気象条件かつ出穂期前の薬剤防除が適期に行えず、いもち病や紋枯病が多発する圃場が多く見受けられます。

いもち病は、葉いもち病から穂いもち病・穂首いもち病に伝染することで籾の稔実を阻害します。紋枯病は株元に現れた灰白色の病斑が進展すると葉身や

穂まで侵され、どちらも収量の減少につながります(写真②)。

紋枯病が前年に発生した圃場では菌核が越冬して翌年の発生源となること、さらには出穂期前の薬剤防除が適期に行いにくいことから、箱施用薬剤でこれらの病気を防除しておくことをお勧めします(表①参照)。



写真④ エバーゴルフォルテ箱粒剤

写真③ スタウトパディート箱粒剤

穂まで侵され、どちらも収量の減少につながります(写真②)。

紋枯病が前年に発生した圃場では菌核が越冬して翌年の発生源となること、さらには出穂期前の薬剤防除が適期に行いにくいことから、箱施用薬剤でこれらの病気を防除しておくことをお勧めします(表①参照)。

表① 殺菌剤を含む箱施用薬剤

薬剤名	対象病害虫
スタウトパディート箱粒剤(写真③)	イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、 <u>いもち病</u>
ブイゲットプリンス粒剤10	
エバーゴルフォルテ箱粒剤(写真④)	イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、 <u>いもち病</u> 、 <u>紋枯病</u>

**ジャンボタニシ対策は薬剤防除だけじゃない!**

近年発生数が増えてしまったジャンボタニシ(写真⑤)を薬剤防除だけで根絶することは、ほぼ不可能です。必ず耕種防除と組み合わせて行い、代かき・田



写真⑤ ジャンボタニシ

植え前から越冬数や水田内への侵入を抑えるようにしましょう。

**耕種防除① 厳寒期の耕うん**  
物理的に貝を破壊し、さらに寒さに当てることで凍死させることで越冬数を減らします。耕うん時は時速1・4キロ以下、回転速度をPTO2にすることで殺貝率がアップします。

**耕種防除② 水路の泥上げ**  
常に水や泥がある水路はジャンボタニシにとって越冬に最適な場所です。水路の泥を掘り上げ、薄く広げて貝を寒さに当てましょう。

**耕種防除③ 圃場は均平に**  
ジャンボタニシ被害は水の深い箇所に集中します。前年に水の深かった箇所は均平ならしておきましょう。圃場が均平であれば、田植え後の浅水管理も効果的に行うことができます。

12月の分析経過について 残留農薬分析点数・・・12月は実施なし 土壌診断点数・・・合計56点

今後の管理

●トンネル換気

ソラマメは本葉5枚以上になると耐寒性・耐暑性ともに弱くなります。特に低温期に開花する低段の花を守るため、トンネル被覆と換気が重要です(生育適温16～20℃)。

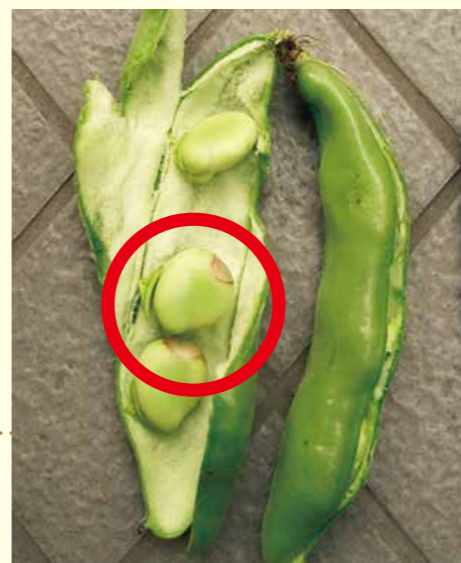
●整枝と土入れ

採光性を良くし、3粒莢を多くするために3月上旬・中旬頃から整枝を行いましょ。節間の詰まった太い側枝を1株当たり7本程度残します。主枝と芯止まりの側枝は株元から除去しましょ。草勢が弱く、側枝の少ない株は放任します。

整枝後、株の中央部に置土をすることで、採光性の向上と新たな側枝の発生を防ぐことができます。近年は放任栽培も増えていますが、3粒莢を増やすため整枝管理を行うことで、収穫の労力軽減や収量増加につながります。

●追肥

追肥は、窒素・加里主体の高度化成S842を2～3回に分け



写真① ソラマメしみ症

**●追肥のタイミング**

◆1回目(3月上旬・中旬)  
花の生育促進、光合成の葉の確保のため、整枝直後に行いま

水対策をとりましょ。定植後から開花期までは、圃場が乾燥しない程度に灌水し、根の活着を促します。開花期以

て(1回当たり20㎡施用)、畝の肩または通路へ行います。低温時は肥料分の吸収が緩慢になるため、メリット青(300～500倍)などの葉面散布剤の施用もお勧めです。

石灰欠乏対策として、開花期からカルタス等のカルシウム液剤を1週間ごとに散布しましょ。石灰欠乏は、元肥に石灰質肥料を施用していても土壌が乾燥すると発生しやすく、不稔や実にしみ症(写真①)を生じます。

◆2回目(4月上旬)  
安定した受精と欠粒防止のため、トンネル除去直後に行いましょ。

◆3回目(4月下旬)  
「生育状況によって施用」  
莢の肥大を促進するため、莢が小指サイズの時期に行いましょ。

●乾燥対策  
昨年度は降水量が少なく乾燥気味で、砂地の圃場では初期生育の遅れが見られました。1月以降は降水日が少なかつたものの、大雨の日が数日あり、水はけの悪い圃場では湿害が見られました。排水不良で水がたまってしまいう圃場では、明きよを掘り、大雨時の排水対策をとりましょ。

降は7～10日おきに5～7ミリ程度、灌水してください。特に、開花期は水を欲する時期です。通路に水を流すなど行ってください。降雨がある場合は湿害の要因となるので、灌水は控えましょ。

●暴風対策  
近年、強風による倒伏被害が発生しています。特に、トンネルを除去した圃場で被害が大きい傾向にあります。暴風対策として、ビニール被覆除去後のトンネル支柱を2～3日間隔で残し、できれば2段誘引テープを張ることをお勧めします。被覆なしの場合は支柱を立てて、同様の対策を行いましょ。

「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちらから(登録無料)



J山武郡市の組合員ならどなたでも登録できます。